

一木謙二 けんじ 傳染病學者、醫學博士。明治六年一月十日秋田縣生れ、昭和四十一年四月二十七日歿（一八七三—一九六六）。舊姓樋口。遊素堂、素堂子。明治二十四年東京帝國大學醫科大學卒。大正八年東京市立駒込病院院長、十年東京帝大教授、傳染病研究所技師、日本醫科大學教授兼任。昭和四年赤痢菌の新種発見等で帝國醫學士院賞受賞、また日本傳染病學會を創設、二十年文化勳章受章。一方一木式健康法を創始、腹式呼吸、玄米食を推奨した。

著書『古事記神代篇の正しき解釋』（昭和十二年七月）『大日本養正會』（『日本人種の起源新説』）（昭和十四年六月五日大日本養正會）、『大和言語學の特性』（昭和十四年六月五日大日本養正會）、『國家經濟と國民栄養圖表解説』（昭和十五年十一月二日大日本養正會）『大日本養正會叢書』（『腹式呼吸と健康—頭腦がよくわかる健康長寿の秘訣』（昭和四十七年八月十五日）『一木謙二刊、研文書院（等。文獻、吉村正太郎著『博士一木謙二先生と親鸞信仰』（昭和四十二年九月）『二十五日通信健康友の会』（『一木謙二先生』（昭和四十四年十月）『二十日一木謙二先生記念会（等刊。